



「円中戦争体験を伝える会」 会長 井上 義幸さん

戦争を体験した方から直接話を聞くことのできる機会は年々減ってきています。そうした中で、体験者や遺族の思いを伝えていこうと地域で取り組み方たちがいます。「円中戦争体験を次世代に伝える会」は、そんな取り組みをされている団体です。会長の井上 義幸さん(円中)にお話を伺いました。

次世代へ伝えていく

「わたしたちの戦争の記憶」発行にあたって



私の父は、昭和9年12月の召集から3回にわたり、11年間戦地に赴きましたが、無事に帰還することができました。しかし、叔父は昭和17年5月の教育召集により入隊後、昭和17年7月に応召し、その後、昭和19年4月26日マニラ方面に向かう航海中、マニラ西方洋上において、敵潜水艦攻撃により戦死しました。22歳10か月の時でした。

私の父は、11年間の戦争体験の中で、よく命を落とさずに生きて帰ってきてくれたと思います。父は、戦後、昭和30年の町制施行以来、戦争中に地域の皆さんにお世話になった恩返しができるかと、長年にわたり町議会議員、消防団副団長、戦没者遺族会会長などを歴任し、地域の安全と戦争の悲惨さ、平和の大切さを伝えてきました。



体験談の聞きとり



それぞれの体験を語り合う(円中ふれあいの集い) 紙芝居で体験談を伝える(円中ふれあいの集い)

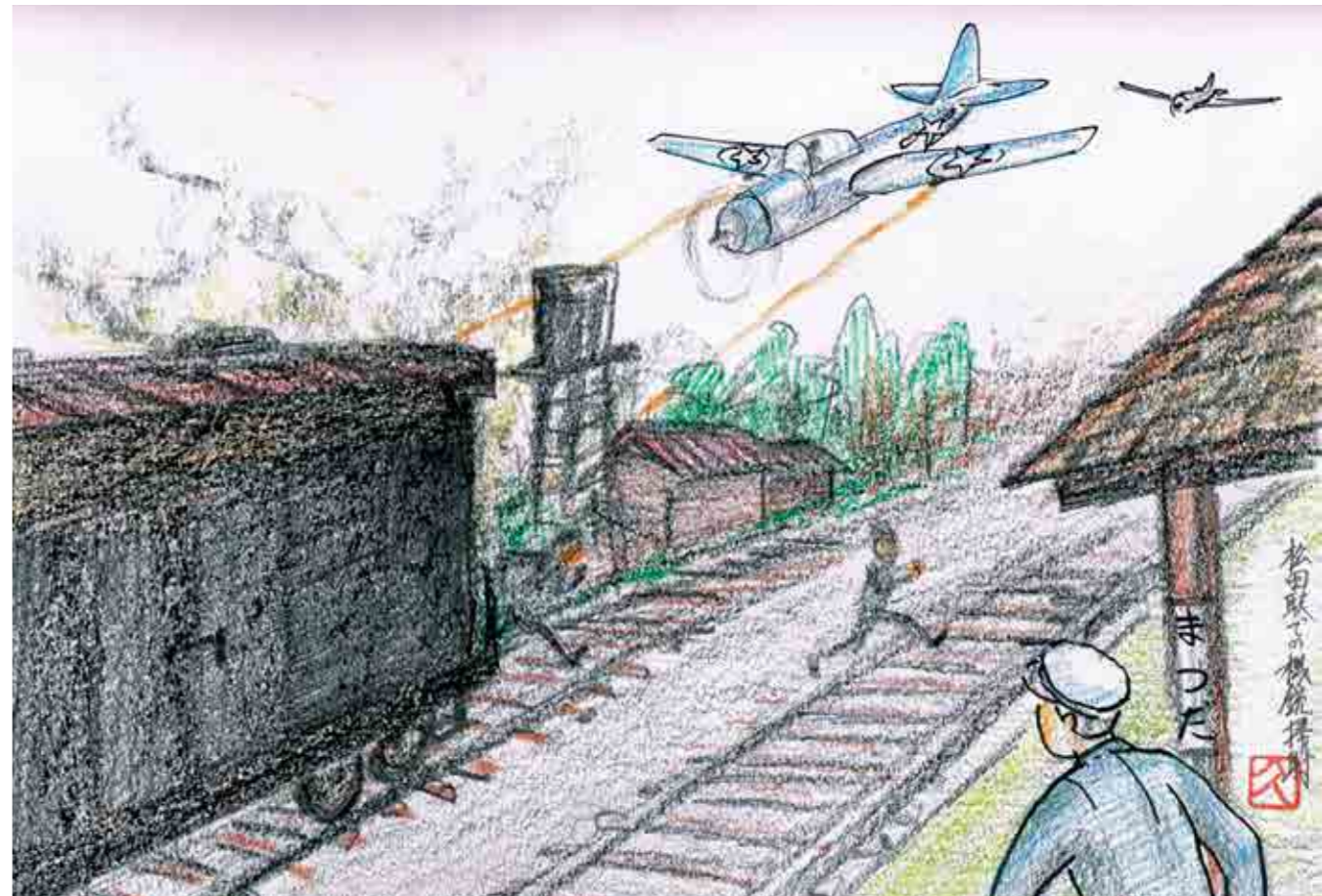
※1 教育召集：旧日本陸軍で補充兵を教育するために行った召集のこと。
※2 応召：召集に応じて軍隊に入ること。



井上さんのお父様 昭和17年3月ハルビンにて



昭和16年2回目の召集の出征



平和への願い

～語り継ぐ記憶～

問 福祉課 ☎84-0316

昭和20年8月15日、太平洋戦争は終戦を迎え、今年で72年。かつては、開成町にも、戦争を体験された方、戦没者のご遺族がたくさんいらっしゃいましたが、長い年月が経過する中で、その体験を語り継ぐ方が少なくなっています。戦争の記憶を風化させず、平和の尊さをいかに次世代へ伝えていけるかが、大きな課題となっています。今月号では、先の大戦の悲惨さと平和の尊さを改めて考え、次世代へ伝える取り組みを紹介します。

